

H29

平成29年度補正  
ものづくり・商業・  
サービス経営力向上  
支援補助金

# 有限会社日高林産

■事業

木材乾燥機導入による生産性と  
品質向上による木材製品の付加価値の増大

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

全自動電気式木材乾燥機 MTG-200E

## 建築用製材から間伐材活かした加工材へ 県産のスギ・ヒノキの小径木を有効活用

【経営理念】

- ◎消費者にライフスタイルを提案できる高付加価値商品づくり
- ◎間伐材の有効利用を進め、森林の再生とエコ商品の提供を行う

木材は、高温多湿の日本の気候に合うことから、古来、建築資材に使用されてきた。その豊富な木材資源を持つ風光明媚な中山間地である邑智郡に、1960(昭和35)年、日高林産は建築製材所として創業した。1993(平成5)年に新工場を建設し、法人化と同時に日高弘毅氏が代表取締役に就任、事業を継承した。2006(平成18)年羽須美工場を開設し、現在は旧工場を含め3つの工場で建築用加工材と特殊加工材、新製品の開発を手掛け、県産木による産業起こし、まちづくりに取り組んでいる。

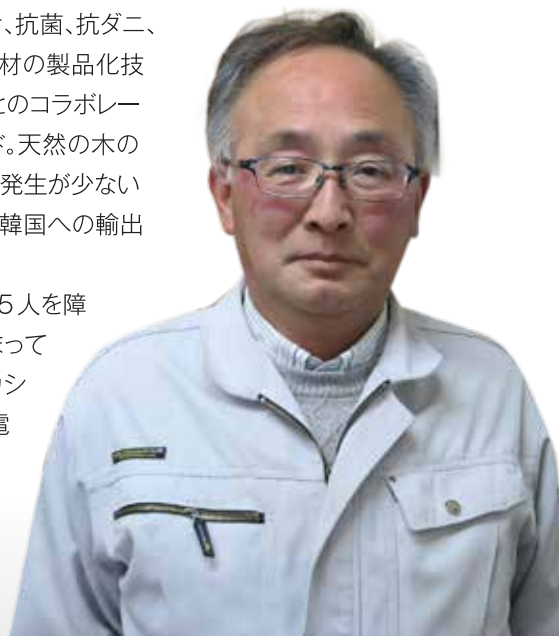
近年は、他社との差別化と製品の付加価値を高めるため、島根県内で生産される間伐材に着目。スギ、ヒノキの小径木を有効活用した商品開発を手掛けている。

間伐材は、木材として加工する途中で曲がりやねじれの「暴れ」と呼ばれる現象が強く見られ、製品化するには高度な技術力が求められる。日高林産は研究を重ね、自社で技術を開発。木の暴れを抑え、乾燥後に独自の接着技術で無垢材を張り合わせ加工し、狂いの少ない製品づくりを実現している。

## 企業コラボで桧すのこベッド誕生 機械導入による品質向上で増産

ヒノキは森林浴と同様、神経をリラックスさせ、抗菌、抗ダニ、防臭の働きも認められ注目を集めている。間伐材の製品化技術と製造ノウハウから生まれたのは、県外企業とのコラボレーションで製品化された島根県産桧すのこベッド。天然の木の香りが心地よい眠りを誘い、通気性がよくカビの発生が少ないと評判を呼び、国内はもとより数年前から台湾、韓国への輸出を行っており、生産量も年々上がっている。

桧すのこの製造は、現在、12人の従業員(内5人を障がい者雇用)で対応している。年々、需要が高まっていることから、補助事業で「下鋸リッブソー カシワギ製ギヤングリッバー」と、木の暴れを抑える電気式の木材乾燥機「弱減圧式乾燥装置」を導入した。下鋸リッブソーは一度に5枚の板が製材でき、生産性アップと効率化を実現。また弱減圧乾燥装置導入により、小径木の乾燥時にかける変形が抑えられて品質が向上し、26.6%



代表取締役 日高弘毅

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス



- 1 導入した全自動電気式木材乾燥機
- 2 下鋸マルチリップソー
- 3 製品のベッド



増産した。

出雲木材市場と連携する三層パネル、桧積層パネル・ルーバーウッド、E' s-WOODの新商品の開発・製造販売も好調だ。

## 売り上げの約6割を占める間伐材製品 東京農業大学との連携で新商品開発へ

近年、製材業を取り巻く環境は厳しく、県内の事業者数は年々減少傾向にある。競争も激化しており、建築用資材は価格の下落を招き採算割れを起こす場合も出ている。日高林産も、今まで主力だった製材や壁、床加工材の売り上げは減少傾向にある。その半面、家具メーカーからの受注は増加。新たに開発した細すのこタイプのベッドも好調で、間伐材製品が売り上げの60%を占めるようになった。

一方で、地域に眠る資源を発掘し、新しい時代のニーズにふさわしい魅力あるまちづくりや地域に合った産業おこし、人的ネットワークを構築することを目指したプロジェクトを東京農業大学と連携して進めている。その一環として、E' s-WOODを活用した香木の森ガーデニンググッズを製造。今後、新商品の開発にも余念がない。温暖化による環境問題にも目を向けながら、安全性と強度、機能性の高い加工材や新しい集成商品の開発に取り組んでいる。

## ■Company Data

### 有限会社日高林産



日高林産工場

代表者名：日高弘毅  
創業年：1960(昭和35)年  
設立年：1993(平成5)年  
資本金：3,000千円  
従業員数：12名  
主たる業種：木材・木製品加工業  
本社：〒696-0221 邑智郡邑南町鱒淵1111  
電話：0855-83-0323  
Fax：0855-83-0431

県産の間伐材利用による商品開発で  
消費者に新たなライフスタイルを提案  
森林再生と環境保護に取り組む